

2024年11月17日

サッポロウォーカーブル公募型実証実験成果報告会

真駒内駅前地区にぎわい ウォーカーブル実証実験

所属：マコエキ会

発表者：澤入 陽介



札幌市による「公共的空間活用による歩きたくなるまちづくり推進事業(サッポロウォーカブル実証実験)」は、地域団体等が主体となって道路や公園、広場等の公共的空間を活用することでウォーカブルなまちづくりの可能性を検証し、また効果的な手法を確認することを目的に実施するものです。

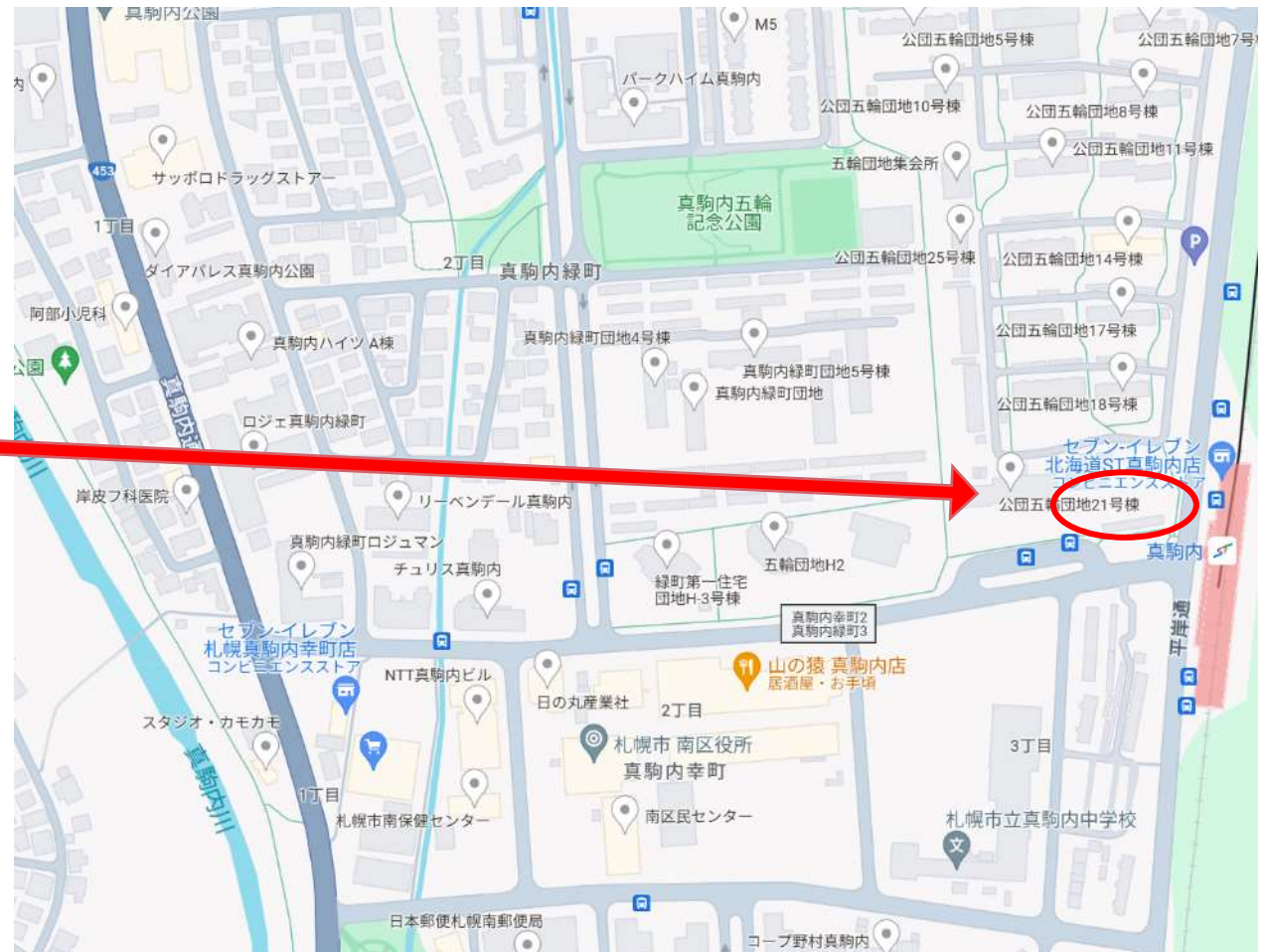
道路や公園、広場等の公共的空間を、地域課題等に応じて、ゆったりとくつろいだり、様々な活動を行ったりする場所とすることを実際に試すことで、地域の人たちにどのような影響があるか、車や人の流れに変化が起きるかを確認するものです。



- イベント名 : 公共的空間活用による歩きたくなるまちづくり推進事業
真駒内駅前地区にぎわいウォーカブル実証実験
通称「マコエキフェス」
- 開催日時 : 9月28日(土) 11:00～16:00
- 開催場所 : 真駒内駅前札幌冬季オリンピック記念時計塔周辺
- 主催 : マコエキ会・札幌市

開催場所

公共的空間活用による歩きたくなるまちづくり推進事業
真駒内駅前地区にぎわいウォーカブル実証実験「マコエキフェス」の開催場所





開催コンテンツ

- ・ マルシェ
- ・ キッチンカー
- ・ パフォーマンス
- ・ 紙芝居
- ・ ベンチなどの休憩スペースの設置

① パフォーマンススペース

② 運営本部

③ 花ときのご細貝 (13:30 OPEN)

④ ユニバーサルカフェ minna

⑤ 花屋 ツキトキツツキ

⑥ おだんごこまち

⑦ 根本商店 (12:00 OPEN)

⑧ 池袋サイゴンレストラン

⑨ Cafe じごく坂



開催風景①

会場装飾



サイン



ガーランドや風船などの装飾



タペストリー

会場レイアウト



開催風景②

出店ブース



運営本部、野菜販売



焼き菓子、お花の販売



お団子、アルコール販売

会場コンテンツ



音楽の演奏

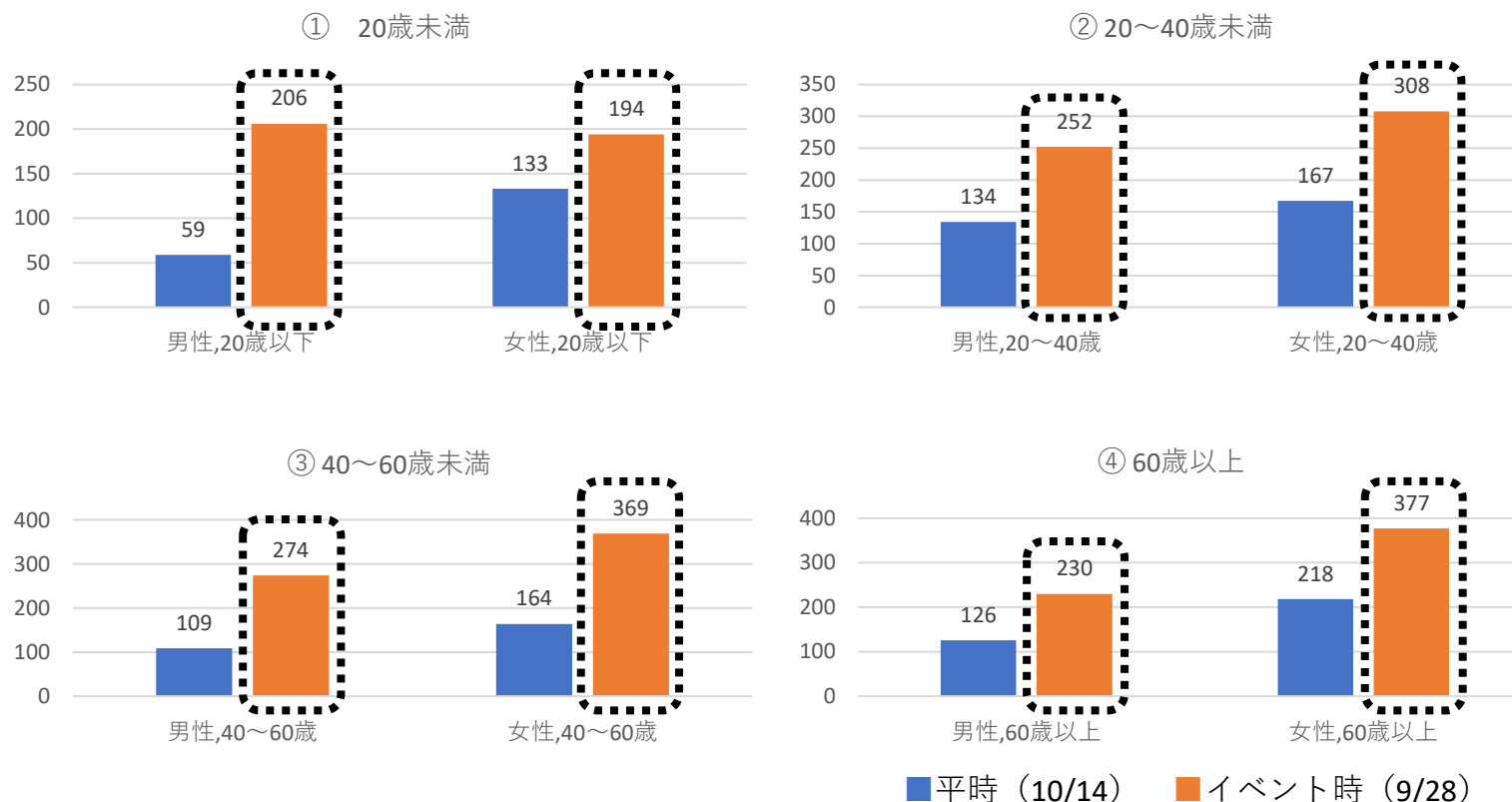


紙芝居



ベンチ

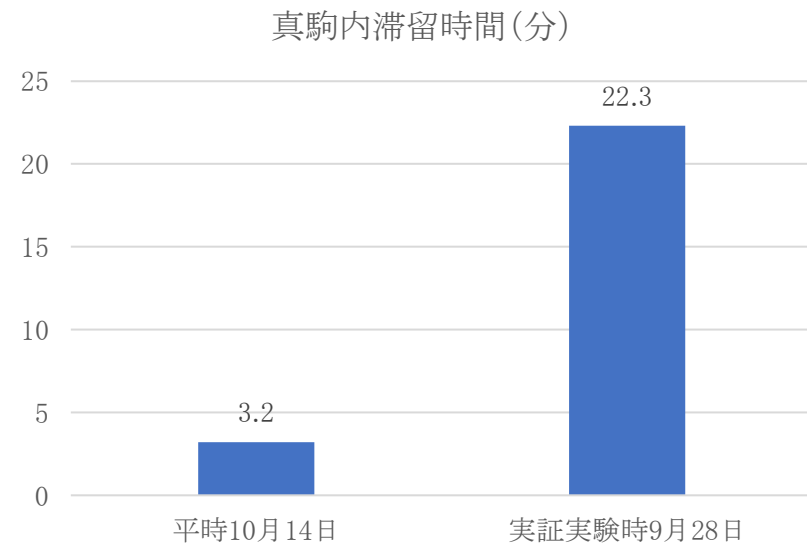
駅前広場の歩行者数



平時では 5 時間で合計1110名だったのに対し、
実証実験時には約2倍の合計2210名となった。

平時の約 2 倍へ増加↑

駅前広場の滞留時間



滞留時間は平時が約3.2分、実証実験時は約22.3分と
平時と比較して約7倍の時間増となった。

平時の約 7 倍へ増加↑



・工夫した点

- ・ 来場者の滞留時間を延ばすために、物販店舗の他、キッチンカーや休憩ができるガーデンセットやベンチを設置。
またパフォーマンスも組み込み、賑わいづくりを演出した。
- ・ 広報の期間や手法が限られていたため、イベント開催の1週間前より会場に開催告知のサインを設置し、市民へ広報を行った。
- ・ 会場装飾（タペストリーやガーランド、風船）などを装飾することでテントの無機質さを改善し楽しさを表現した。

・改善したい事

- ・ 今回は真駒内駅前広場で開催したが、スペースが限られていたため、今後実施する場合は、他の場所も含むことを検討していきたい。



実際の結果

「真駒内駅周辺にどのような取り組みや機能があれば歩きたくなるか」という設問に、約6割の回答者が、**キッチンカーやカフェなど飲食ができる**と**良い**、**音楽やフリーマーケットなどのイベントが開催されている**と**良い**という回答だった。次に椅子や屋根などの休憩スペースや冬季のイベント、常設の商業機能という回答となっている。

「あと10分長く「マコエキフェス」に滞在し、楽しむためにあると良いもの」という設問に、回答者の約6割が**好みのマルシェやキッチンカーの出店があればより長く滞在する**と回答している。その次に**居心地の良いベンチやテーブルなどの休憩スペース**となっている。

検証2（実際の結果②）



アンケート結果では、マコエキフェスに魅力を感じた点という設問で「真駒内駅前の賑わいを感じた」「マルシェやキッチンカーでの買い物」「ベンチやテーブルの休憩スペース」が多く回答された。

また、回答者全員が「とてもよかった」「まあまあよかった」という回答となっており、工夫した点の意図が来場者にも伝わりマコエキフェスの満足度は高かったと思う。

検証３（取り組み内容と予想される効果）



・ 取組内容

- ・ 真駒内駅前広場でマルシェやキッチンカー、演奏会や紙芝居を実施。
- ・ ベンチやガーデンセットを設置し、買い物だけではなく、飲食もしていただき、会場へ滞留時間を長くすることを意識した。

・ 予想される効果

→ 普段は通行導線になっている場所で開催することで賑わいを創出。

検証4（イベント開催による効果）



歩行者数：平時の約**2**倍に増加

広場周辺の滞留時間：約**22.3**分増加



賑わいづくりを演出！



【目的】

地域課題等に応じて、ゆったりとくつろいだり、様々な活動を行ったりする場所とすることを実際に試すことで、地域の人たちにどのような影響があるか、車や人の流れに変化が起きるかを確認するものです。

【結果】

マルシェ、キッチンカー、パフォーマンス、紙芝居、ベンチ等の休憩スペースの設置などコンテンツについて、利用者からの評価は非常に高かったと感じた。

**真駒内地区では、地域課題を
解消する手法について
今後も継続した活動が必要。**

改善すべき点



- 南区の方にも地元の店舗を再発見する機会になった反面、南区を中心とする出店者が多かったので区外の方にも多く来場を促すよう、よりの確な広報の改善が必要だと思った。
- 南区は音楽、アートをはじめとするコンテンツが多いので様々なコンテンツを実施したい。



今回は真駒内駅前広場で開催したが、スペースが限られていたため、実施コンテンツが限られてしまった。

今後実施する場合は、駅前広場より広いスペースの候補場所を検討していきたい。



真駒内駅前広場周辺は、バス停やタクシー乗り場が多くイベントの搬入出が思っていた以上に大変だった。しかし、駅前広場でイベントが開催されるのは30年ぶりで、駅前の再開発を控えている今、イベントを実施した意義は大きいと感じた。



定期的にイベントを開催することで賑わいの創出や、駅前に行けば何かやっているという意識づけは可能性と考える。

今後も、冬季間のイベント・催しも考慮するなどして、南区の拠点としての役割を果たすべきと考える。

そのためには、市民側と行政側のさらなる連携・継続が必要と考える。